

～実践記録～

1. 学校名：信州大学教育学部附属松本中学校

2. 対象：1年生 生徒38名

3. 活動内容

(1) 活動名 「廃材で ReCycle！笑顔につながる持続可能な社会づくり」

(2) 活動の目標

- ・限りある資源を有効的に活用し、捨てられるものが、自らの手で新たなものに形を変える喜びを味わい、自分や相手、地域が笑顔になることを実感することでリサイクルの価値を再確認する。
- ・地域の廃木材や間伐材を利用している方々との交流を通して、木材を通して住み続けられるまちづくりに取り組もうとする方々の思いを知る。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持って） |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

②育成する資質・能力

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 2 つくる責任 つかう責任
- 1 3 気候変動に具体的な対策を
- 1 5 陸の豊かさも守ろう



(5) 活動の内容

① 3年間の総合的な学習における理念(大切にしたいこと)を決定する。

- ・「協力」「笑顔」「繋」に決定。3年間の総合的な学習において、友と協力し、活動を楽しみながら自分たちが笑顔になったり地域の人が笑顔になったりする時間にしたい。(共通意識)

② 夏休み中に自分の興味のあることを実際に活動してみて、クラスに伝えよう。

- ・家に余っている木材で棚を作る ・マツクイムシに侵された木材で箱を作る
- ・古着を裂いて、織り直し布を作る(さきおり) ・牛乳パックから和紙を作る → プレゼン大会①



③プレゼン大会①で魅力を感じたことをもとにグループに分かれて活動しよう。

- ・古紙から和紙作り、廃木材からベンチ作り、廃木材から箸作り、古着からさきおり、マイボトル推進、井戸水PR、身近なリサイクル、曲作り、捨て猫保護の9つに分かれて活動を行う。



④3カ月間活動を行ったからこそ感じる魅力やグループの共通点を見つけよう。

- ・自分たちのグループの魅力を伝えるためにグループで1時間をコーディネートし、体験会を行う。
(例：古紙から和紙づくり)

教室に設置されている古紙回収ボックスに捨てられている紙を再利用し紙をつくる体験会を行った。「これがあの紙?」「こんなにドロドロになっちゃって紙になるの?」という声から体験会は始まった。各グループに紙づくりグループのメンバーが入り、友に指導していく。やがて「お!紙っぽくなった!」や「ハガキにもなるね!捨てられていたなんてもったいないな」という声が生徒からつぶやかれるようになった。 → **プレゼン大会②**



4. 活動の成果

本校では、「自らの内に問いを立て、主体的に探究していく総合的な学習の時間」をテーマに学習を行っている。1学年では9月に行われた志賀高原体験学習において、ユネスコエコパークやSDGsに関する学習を行ってきた。その結果、環境に関する興味や関心を持ち、夏休みの実践では、リサイクルや環境などに関する活動が多かった。プレゼン①後は、生徒自らが活動を決めだし活動を行ってきた。1月中旬に行われた「紙づくりグループ」の体験会では、全員が紙づくりを体験できるように、班の数(8つ)分の木枠を廃木材を使って自ら作成し、捨てられるものから自らの手で新たな物へと変化していく魅力を伝えることができた。体験した生徒の感想を以下のように記す。

古紙がドロドロになっている原液を触るととてもドロドロしていた。再生紙ということは、一度使った紙をとかして、もう一度使えるようにするってことだから、とても環境に良い活動だと思った。楮を一から作るのにはすぐにはできないけど、身近な古紙を利用しようとした発想がいいなと思った。私たちも環境のことを考えて活動しているので、やっている活動は違うけど環境やリサイクルといった点でよく似ている。次回は、廃材ベンチづくりのグループの発表だけど、このクラスは、活動はたくさんあるけど、環境・リサイクルがやりたいことの根底にあるのかもしれない。

2年生からの活動を決めだすことを目的として各活動の魅力を体験した。まず初めに思ったのは「楽しい」ということだ。総合的な学習の理念を決めた時、「自分たちが笑顔じゃなきゃ地域の人が笑顔になるはずがない」というような意見が話し合いで出た。今日紙づくりをやってみて本当に楽しかったし、捨てられるものが自分達の手で新たなものになる良さを感じることができた。自分の紙が出来た時は達成感もあったし、ハガキや障子、ライトスタンドの紙にもなるのではないかなと思った。可能性はたくさんあるし、試行錯誤しながら改良できる良さも感じられた。

このように、自分たちで活動を決めだし、それらを体験し合うことを通して、互いの活動の魅力を認め合いながら、来年度の方向性を吟味する生徒の姿に出会うことができた。

5. 指導方法・体制の工夫

- ①廃材(木材・古紙・古着) ②廃材パレットを譲っていただいたKさん